

公益財団法人 日本バレーボール協会
第9期・2018年度事業計画
(2018年4月1日～2019年3月31日)

日本バレーボール協会（JVA）は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

1. 基本方針

■公益財団法人としての透明性の確保

ガバナンスの確立、コンプライアンス強化をはじめとする組織の厳格な運営、適切な情報開示

■JVA運営における目的と手段の明確化

JVAが解決しなければならない課題や目標を明確にし、それを達成するための具体的な手段を確立する。

■JVAと加盟団体とのコミュニケーションの促進

加盟団体との連携強化、JVA・加盟団体が果たすべき役割の明確化、情報の共有

■「2050年構想」と「中期計画」

現下の非常に厳しい経営環境に鑑み、「2050年構想」及び「中期計画」に関しては改訂も視野に入れ、理事会、加盟団体等関係先との議論を早急に実施する。特に、3～4年を見据えた財務計画を「中期計画」に盛り込み、各年度の事業計画及び予算に連動させて進捗を管理する。

<基本方針を推進するための施策>

■「強化」

- ・2020東京オリンピックおよび2大会先を見据えた強化計画の策定と確実な実行一貫した強化育成の推進。
- ・ビーチバレーボール事業の特別強化、普及のための実行計画の策定
2020東京オリンピックまでの年次毎の実行計画を策定し確実に実行する。
(特に加盟団体との連携・協力体制を明確化する)

■「普及」

- ・競技者人口の拡大
- ・指導者の育成（指導者数の増と指導者の資質向上）
- ・体罰・暴力、ハラスメントの撲滅
- ・加盟団体との連携強化、加盟団体との役割分担の明確化、課題集約

■「連携」

- ・加盟団体とのコミュニケーションの促進とJVAの安定経営のための施策の検討
- ・評議員会と理事会のあり方の検討
- ・JVAと日本バレーボールリーグ機構は、バレーボールに関わる全ての分野において垣根を作ることなく「連携」し、「強化」と「普及」の推進に邁進する。

■「攻め」

- 「強化」「普及」「連携」の3つのキーワードに加え「攻め」への姿勢転換を図る。
- ・JVAの各種事業に関する積極的な広報・告知によるプレーヤー、観戦者、スポンサーの増加

- ・自己財源の確保ができるJVAへの体質転換による2020東京オリンピックに向けた活動エネルギーの蓄積

No/	表記	正式名
(1)	JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会
(2)	FIVB	国際バレーボール連盟
(3)	AVC	アジアバレーボール連盟
(4)	NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター
(5)	JADA	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
(6)	Vリーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表（全日本）チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

2年半後の東京2020オリンピックでのメダル獲得を視野に入れ、男子、女子チームとも昨年新体制でスタートしたチームを更に強化する。本年度新設されたバレーボールネーションズリーグ（旧男子ワールドリーグ、女子ワールドグランプリ）において、男子は、上位チームとのジャイアントキリング（予想を覆す勝利、戦い）を演出すること、女子は、決勝リーグ進出を目論む。

また、アジア競技大会（インドネシア）においては、男女とも覇権を目指す。ただし男子は、スケジュールの関係上シニアチームに準ずるチームで参加する。

加えて、2018世界選手権において、男子はベスト8、女子は表彰台に上がることを目標としチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に実施

海外合宿・オランダ、フランスや中国他にて実施予定

■女子：国内合宿・NTCを中心に実施

海外合宿・イタリア、アメリカ他にて実施予定

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子・女子U-23日本代表チーム強化合宿

2019年度に開催される第3回アジアU-23選手権大会を目指し、選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に実施

注) U-23チームとは、2019年の大会出場を予定するため1997年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

2019年度に開催されるユニバーシアード大会（2年に1回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。※女子は今年度開催のアジア東部地区大会に参加する予定

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

4) 男子・女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

男子チームは、第19回アジアジュニア選手権大会(U-20)、女子チームは、第19回アジアジュニア選手権大会(U-19)でのメダル獲得を目標としてチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ジュニアチームとは、男子が1999年1月1日以降に、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

5) 男子(U-18)・女子(U-17)ユース日本代表チーム強化合宿

第12回アジアユース選手権大会でのメダル獲得を目標としチーム強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC 他で実施

■女子：国内合宿・NTC 他で実施

注) ユースチームとは、男子が2001年1月1日以降に、女子が2002年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓蒙、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

そして、有望選手のリストを中学生よりデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有化する。加えて、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、それらの選手の一貫指導(プロジェクトコア)を実施していく。

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配

5) アンチ・ドーピングの啓蒙を含むスポーツ・インテグリティ保護と強化をはかる

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦(試合)を経て得られる技術、戦術他総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

■男子：

シニア

・FIVB バレーボールネーションズリーグ2018(参加16カ国・総当り戦)

5/25～27 フランス/ルーアン

6/1～3 ブラジル/リオデジャネイロ

6/8～10 日本/大阪市中央体育館

6/15～17 ドイツ/ルートヴィヒスブルク

6/22～24 中国/江門

7/4 ~8 フランス/リール

- ・第18回アジア競技大会 インドネシア/ジャカルタ (8/18~9/2)
- ・2018男子世界選手権 イタリア・ブルガリア (9/12~30)
- ※オープニングマッチ イタリア/ローマ (9/9)

アンダーカテゴリー

- ・第12回ユース U-18 アジア選手権 イラン/タブリーズ (6/29~7/6)
- ・第19回ジュニア U-20 アジア選手権 バーレーン/マナーマ (7/21~28)
- ・第6回AVCカップ チャイニーズタイペイ/台北 (8/8~15)
- ・日韓中ジュニア交流競技会 麗水/韓国 (8/22~29)

■女子:

シニア

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 (参加16カ国・総当り戦)
 - 5/15 ~ 17 ブラジル/バルエリ
 - 5/22 ~ 24 日本/スカイホール豊田
 - 5/29 ~ 31 ホンコンチャイナ/香港
 - 6/5 ~ 7 タイ/ナコンラチャシマ
 - 6/12 ~ 14 ポーランド/ブイドゴシュチュ
 - 6/27 ~ 30 中国/南京
- ・第18回アジア競技大会 インドネシア/ジャカルタ (8/18~9/2)
- ・2018女子世界選手権 横浜・名古屋・浜松・神戸・大阪・札幌 (9/29~10/20)

アンダーカテゴリー

- ・第12回ユース U-17 アジア選手権 タイ/ナコンパトム (5/20~27)
- ・第19回ジュニア U-19 アジア選手権 ベトナム/ハノイ (6/10~17)
- ・アジア東部地区選手権大会 中国/張家港 (7/10~15)
- ・日韓中ジュニア交流競技会 韓国/麗水 (8/22~29)
- ・第6回AVCカップ タイ/ナコンラチャシマ (9/17~23)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018

FIVB バレーボールネーションズリーグは、参加権を与えられたコア 12 チームにチャレンジャー4 チームが加わり、2018年からスタートする世界転戦型のリーグ戦方式の大会。2018年は第1回大会となり、2024年までは、男女全日本チームはコア 12 チームのひとつとして参加資格を与えられている。

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 女子豊田大会

➤開催期間: 5月22日(火)~24日(木)

➤開催都市: 愛知県豊田市(スカイホール豊田)

➤参加国: 日本、ベルギー、オランダ、アメリカ

(選手団80人、競技役員10人、計90人が参加予定)

- 試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》
- FIVB バレーボールネーションズリーグ 2018 男子大阪大会
- 開催期間：6月8日（金）～10日（日）
- 開催都市：大阪市（大阪市中央体育館）
- 参加国：日本、イタリア、ブルガリア、ポーランド
（選手団80人、競技役員10人、計90人が参加予定）
- 試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

3) FIVB ビーチバレーボール ワールドツアー2018 4 Star

ワールドツアーはFIVB主催の毎年世界各地で開催されるビーチバレーボール界最高峰のイベント。大会は5段階のグレードに分かれ、今大会は上位から2番目の4 Star イベント。

- 開催期間：7月25日（水）～29日（日）
- 開催都市：東京
- 参加チーム数：本戦 男女各32（最大）
- 大会方式：本選=プールプレー（6プール×4チーム） & *シングルエリミネーション（4ラウンド）
(*)シングルエリミネーション方式：1回負けたら敗退のトーナメント方式

4) 2018 女子バレーボール世界選手権

4年に一度開催されるバレーボール界で最も歴史と伝統のある世界最大規模のイベント。世界の国と地域から118チームが参加した予選ラウンドを勝ち抜いた22チーム、前回優勝のアメリカ、開催国日本を加えた24チームで競われる。

- 開催期間：9月29日（土）～10月20日（土）
- 開催都市：横浜、札幌、神戸、浜松、名古屋、大阪の6都市
- 参加国：予選ラウンド勝者22チーム、前回大会優勝国アメリカ、開催国日本
計24チーム
（選手団480人、競技役員140人、計620人が来日予定）
- 試合数：延べ103試合
第1次ラウンド1日3試合×5日×4開催地=60試合
第2次ラウンド1日4試合×4日×2開催地=32試合
第3次ラウンド1日2試合×3日=6試合
決勝ラウンド 準決勝・5-6位決定戦 3試合
1-2, 3-4位決定戦 2試合

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織であるFIVB及びアジアの統轄組織であるAVCの理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB及びAVC理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、FIVBおよびAVCが主催する大会への競技役員ならびに審判員を派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へ、競技会で使用したボール、全国のバレーボール愛好者から寄贈されたボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情

報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との友好を結び、連携強化を図る。

（3）講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①競技者拡大

近年の競技人口の減少は憂慮する事態であり、特に小学生、中学生が著しく減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業のリニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を設定する。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、新規事業を立ち上げ競技者拡大を図ることを念頭に、今年度は以下の事業を実施する。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を全国9会場で開催予定。

2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国3会場（予定）で開催する。（開催地については調整中）

3) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促す事業展開する。全国9ブロック単位で開催予定。

4) 小・中学生競技継続推進事業

小・中学生のチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール接触機会と楽しさを増加してもらうとともに、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進する。

②指導者養成事業

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会等を開催する。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、各地で開催する。（開催地については調整中）

2) 日本体育協会からの受託事業として、日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を各地で開催する。

3) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を、各年交互に、東京、または大阪で開催する。

4) 全国小学生バレーボール指導者研修会

小学生の指導者を対象として第一次・第二次・第三次講習会を各地で開催する。（開催地については調整中）

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を各地で実施する。（開催地については調整中）

③審判員等養成・育成事業

国際大会におけるスコアラー・ラインジャッジおよび国内競技会の適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員を養成・育成するために、以下の講習会・研修会を開催する。

講習会・研修会名等	開催期間	開催地・会場等
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	3/24～25	東京文具共和会館・慶応大学中等部
全国9人制審判講習会	4/1	JEC 日本研修センター
全国ラインジャッジクリニック	4/29～5/1	大阪市中央体育館
国際審判員（候補）審判技術強化事業	4/29～5/2	大阪市中央体育館
ブロックA級審判員講習会	4/1～8/31	全国各ブロックで開催
A級候補審判員講習会（ACキャンプ）	8/11～16の期間	近畿大学（予定）
9人制特別A級候補審判員講習会	5月	大阪
B級審判員レフェリーキャンプ	8/11～16の期間	近畿大学（予定）
Vプレミア・チャレンジリーグ合宿	5～10月	プレミアチーム・チャレンジチーム
A級審判員研修会（6人制）	11/26～12/2	東京都（大田区総合体育館他）
A級審判員研修会（9人制）	11/29～12/2	大阪市

④指導者および審判員資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することを目標に、バレーボールの特性を活かしながら本質的な素晴らしさを伝える指導者資格として以下の認定登録を行う。

- 小学生バレーボール指導者資格 ○ソフトバレーボール リーダー/マスターリーダー
- 公認講師
- ビーチバレーボール指導者研修会（ビーチバレーボール研修会開催事業参照）

2) 審判員資格認定事業

競技会における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格認定と登録を行う。

- A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員 ○C級審判員
- レフェリーインストラクター
- ※ビーチバレーボール審判員（ビーチバレーボール講習会開催事業参照）

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯・皇后杯全日本選手権大会（男女大会）

本会に登録する全てのチーム（小学生を除く）が参加可能な、天皇杯・皇后杯の名を冠するに相応しい、国内最高峰に位置づけられている大会である。本年は以下の日程で開催する。

■都道府県ラウンド：

➤開催期間：4～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館 （男子350、女子360チーム参加見込）

■ブロックラウンド：

➤開催期間：9～10月

➤開催都市：各地域ブロック内体育館 （男子121、女子113チーム参加見込）

■ファイナルラウンド：

➤開催期間：12月14～16日、22～23日

➤開催都市：東京（1回戦～決勝） （48チーム参加）

②全日本小学生大会（男女・混合大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の醸成に努めること、小学生から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

■都道府県大会：

➤開催期間：4～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館（5,258 チーム参加見込）

■全国大会：

➤開催期間：8月7～10日

➤開催都市：東京他（東京体育館他）（都道府県代表136 チーム参加見込）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手の発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深め、フェアプレー精神の高揚をめざし、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、以下の日程で開催する。

➤開催期間：12月25～28日

➤開催都市：大阪（大阪市中央体育館他）（96 チーム参加）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として以下の日程で実施する。

➤開催期間：平成31年1月5～7日、1月12～13日（1回戦～決勝）

➤開催都市：東京（東京体育館）（104 チーム参加）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、以下の日程で大学日本一を決める大会を実施する。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

➤開催期間：11月26日～12月2日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）（64 チーム参加）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

➤開催期間：11月26日～12月2日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）（64 チーム参加）

⑥前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催する。

大会名等	開催期間	開催都市
全日本9人制実業団女子選手権大会 全日本9人制実業団男子選手権大会（同一開催）	7/20～23	仙台市・利府町
全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/10～13	久留米市
全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	7/26～29	山口市
全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/19～21	桜井市他
全国社会人東ブロック男女優勝大会	11/9～11	富山市
全日本9人制総合女子選手権大会 全日本9人制総合男子選手権大会	11/29～12/2	大阪市
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	4/30～5/5	大阪市
全日本6人制クラブカップ男子選手権大会	8/17～19	大阪市

全日本6人制クラブカップ女子選手権大会	7/26～29	宇都宮市
全国ヤングクラブ優勝大会	9/22～23	門真市・大阪市
全国ソフトバレー・シルバークフェスティバル	9/22～24	長岡市
全国ソフトバレー・レディースフェスティバル	10/26～28	草津市
全国ソフトバレー・スポレクフェスティバル	11/30～12/2	津市
全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	31/2/16～17	町田市
全国ヴィンテージ8'S交流大会	11/2～4	宮古市

⑦公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

➤日程：10月5～8日 開催都市：福井県あわら市・坂井市

2) 日本スポーツマスターズ2017

➤日程：9月15～18日 開催都市：北海道札幌市

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

➤日程：7月26～30日 開催都市：三重県伊勢市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

➤日程：8月1～5日 開催都市：三重県津市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

➤日程：8月1～5日 開催都市：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

➤日程：8月21～24日 開催都市：島根県松江市

(5) V. LEAGUE（ブイリーグ）開催及び開催支援事業

Vリーグ機構が主催するV. LEAGUEについて、大会の一部開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に寄与し、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源確保を図ることを目的として開催する。

また、大会の競技会運営責任者と審判員の派遣によりV. LEAGUEの開催支援事業を行う。

(6) 地域グループの育成および強化事業・バレーボール教室支援事業

本会の加盟団体および全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成と強化を目的に、運営のサポートや各種事業の支援を行う。

(7) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

東京2020オリンピックでのメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

・第18回アジア競技大会（インドネシア、8/19～28）

東京2020オリンピックでのメダルを見据えて、本大会でのメダル獲得を目指す。

・FIVBワールドツアー（1～8月まで39大会開催予定、9月以降は未発表）

内、強化指定各選手2大会に派遣（その他は各選手自主参加）

- ・AVC アジアツアー（4月に2大会開催予定、今後追加見込み）

年間、4大会に派遣予定

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣する。また計画的な発掘・育成を通じた長期的な強化を目指し、U-19 ナショナルチームを常設する。

- ・AVC U-19 アジア選手権大会（タイ、3/23～25）
- ・FIVB 世界大学選手権大会（ドイツ、7/9～13）、ユースオリンピック（アルゼンチン、10/6～18）

②講習会開催事業

1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催する。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催する。

（平成30年1月12日現在）

講習会名等	開催期間	開催都市	参加者数
全国ビーチバレーボール審判講習会	31/3/31	神奈川県	200人
ビーチバレーボールブロック審判講習会	4～5月	茨城県、福井県	100人
ビーチバレーボール審判員研修会	8月	神奈川県川崎市	30人
A級審判員研修会（ビーチバレーボール）	8/16～19	大阪府岬町	30人
ビーチバレーボール指導者研修会	5～10月	会場調整中	100人

*参加者数は見込

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016年度より、これまでJVAが主催した「シリーズA」と日本ビーチバレーボール連盟が主催した「JBV ツアー」を統合し、「ジャパンビーチバレーボールツアー」として新たな大会を新設した。

日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の確立と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、4～10月に全国各地で大会を開催する。今年度はシーズン拡大のために例年5月の開幕を4月に前倒しし、またメディア露出の見込める新開催地を追加する。

また競技全体の商品価値を高めるべく、まずはジャパンツアーのプロモーション拡充やブランディング強化を図る。

<2018年度開催日並びに開催都市>

（平成30年1月12日現在）

ジャパンビーチバレーボールツアー	開催期間	開催都市
第1戦 沖縄大会	4/14～15	沖縄県中頭郡西原町
第2戦 東京大会	5/3～05	東京都港区
第3戦 平塚大会	6/9～10	神奈川県平塚市
第4戦 南あわじ大会	6/30～7/1	兵庫県南あわじ市
第5戦 行橋大会	7/15～16	福岡県行橋市
第6戦 大洗大会	7/28～29	茨城県東茨城郡大洗町
第7戦 若狭おばま大会	8/4～5	福井県小浜市
第8戦 松山大会	9/1～2	愛媛県松山市

第9戦 都城大会	9/15～17	宮崎県都城市
----------	---------	--------

【ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル】

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA 主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

(平成30年1月12日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル	開催期間	開催都市
グランフロント大阪大会	9/22～23	大阪府大阪市

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（正式競技）

大会名等	開催期間	開催都市
第73回国民体育大会	9/9～11	福井県小浜市

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

(平成30年1月12日現在)

大会名等	開催期間	開催都市
第17回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/3～6	大阪府阪南市
第30回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/7～9	神奈川県川崎市
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/9～12	愛媛県伊予市
第32回ビーチバレージャパン	8/10～12	神奈川県藤沢市
第9回全国中学生ビーチバレー大会	8/12～13	神奈川県藤沢市
第29回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/16～19	大阪府泉南郡岬町

(8) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値の向上及び本会が所有する各種プロパティの価値を向上するために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け、積極的に活動を行う。

(9) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。また、バレーボール用品・用器具のメンテナンス徹底について、継続的に全加盟団体に働きかけ、事故予防に努めていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

(10) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制競技

規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(11) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進するべく、以下の3事業を行う。

- ① 肖像使用許諾事業
本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分する。
- ② バレともサイト運営事業
本会のホームページに立ち上げているバレともサイトの運営を通じて、会費をいただき、チケットの先行販売、会員ならではの有用な情報を提供する。
- ③ バレーボール関連グッズの販売事業
バレーボールの魅力を高め、見る、する人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行う。

(12) 東京2020大会準備室

バレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシッティングバレーボール競技の成功に向けJVA事務局に準備室を設置し、FIVBとの連携の中、競技施設、競技運営、テストイベント、事前キャンプ、スポーツマネジャー選任にかかわる諸準備を行う。スポーツ庁や東京都、そして公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との緊密な連携と積極的な協力を促進し、「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に準備を進める。

- ① JVA東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会を中心に活動を展開する。
- ② 準備委員会に競技運営準備部を置き、競技運営組織の検討、スケジュール及びボランティア募集、育成等を行う。
- ③ 同じく準備委員会にレガシー推進部を置き、人材育成及びバレーボールファミリーの増加策を検討する。
- ④ パラリンピック競技(シッティングバレーボール競技)とは、一般社団法人日本パラバレーボール協会と連携を取りながら協力を行う。

(13) その他の重点項目

- ① コンプライアンス、ガバナンスの強化を推進する。
特に、体罰・暴力・ハラスメントの撲滅については、2020年東京オリンピックの開催を見据えて、加盟団体との連携のもと取り組みを強化する。
- ② 人事制度の整備
- ③ JVAホームページにNFならではの競技データを盛り込み、リファレンスとしての機能を充実させる。力のある媒体にバレーボールの魅力を書いてもらう広報戦略により、バレーボールの情報を広く発信させる。
- ④ 本会の事業戦略に適合したIT環境の整備と強化を図る。特に新MRS(個人登録管理システム)の周知に注力し、2019年に向けたMRS検討委員会で公益事業の充実を目的に登録者数増の施策を検討する。
- ⑤ Vリーグ機構と緊密に連携して事業を展開する。また定例会ならびに主要事業の小委員会を継続的に実施し、積極的協力を促進する。
- ⑥ 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングを遵守する。また世代を問わずアスリートにアンチ・

ドーピング教育を徹底する。

以上